

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター おひさま		
○保護者評価実施期間	令和7年10月3日		～ 令和7年10月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和7年10月20日		～ 令和7年10月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年10月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お預かりするお子様の1日の定員を少人数とすることで、医療的ケアが必要で目つ他事業所での預かりが困難なお子様に対して適切に対応できるようにしていることと、お子様個人の好み・趣向に沿った支援を提供できていること。	当施設を利用される当日のお子様の状態を、医師が診察し、療育にあたる看護師、保育士、児童指導員が保護者の方から丁寧に聞き取り、観察して、活動内容を変えるなど、柔軟かつ臨機応変に療育を行っていること。	今後も保護者の方々との密な情報共有を図りつつ、より職員各々のスキル向上を図りながら、お子様のニーズに沿った支援を提供していきます。
2	医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの医療職と、保育士、児童指導員、心理職などの多職種が連携して支援にあたること。	多角的な視点からお子様の真のニーズを汲み取り、多職種が連携して、お子様にとってよりよい支援を模索・検討していること。	今後もより一層密に、多職種で連携し、お子様のニーズに沿った支援を提供していきます。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の機会を設けていないこと。	感染症に罹患すれば重症化するリスクの高い、医療ケアが必要なお子様や基礎疾患をお持ちのお子様の健康を損なわないようにするため、現状ではやむを得ない。	お子様には様々な社会体験をしていただけるよう、支援の形を模索していきます。
2			
3			